

# 八峰白神ジオパーク

連載 115回



事務局

八峰町産業振興課 ジオパーク推進係  
☎ 0185 (76) 4605 FAX 0185 (76) 2203  
HP <http://www.shirakami.or.jp/~happo-sh-geo/>



ふたつ森お

## 白神山地の恵みに生きる

ジオパークには欠かせない大地で暮らす人々  
地域の人話を聞いて、大地と人のつながりを考えます

### 町を好きになれる活動を



榑海岸の柱状節理の上で

#### 話をしてくれた人

鈴木 和人 すずき かずひと さん

1959年、峰浜水沢生まれ。教職38年間のうち観海小、旧八森小、岩館小、岩子小など八峰町で20年間勤務。趣味は鉄道を利用して、車窓や現地で各地の風景や営みを見ること。

#### ○ジオパークへ関わりだしたきっかけ

沢目中学校時代です。国道101号線沿いの水沢川の近くに萩の台山という小高い山があります。昔、スキー場があった場所です。理科の授業で、この山は砂山なんですけど、「どうして砂山ができたのか」をテーマに学級全員が自転車で乗って現地調査しました。私は、ハマナスが咲いていたのでハマナスがあるからできたんじゃないかという意味不明な考えで……。砂は、風が運んでくるんですよ。この八森油田～旧若美付近まで続く砂丘が、ジオパークに興味を持つ最初のきっかけとなりました。

もともと、海岸地形とか、景色を眺めて土地柄を知るの好きなんです。ジオパークの地質・地形は、そこに住んでいる人と密接につながっています。そのことを、自分の地域の誇りとして生活することは大事だと思います。それを、いろんな人に紹介したいという気持ちになりました。

#### ○印象に残っている授業

八森小学校では、平成8年のハタハタをテーマにした授業でした。子どもたちにとって、かつてハタハタが箱代にもならないほど安価な魚だというイメージがなく、中にはおいしくないという子もいます。そこで、授業の中で自分たちでハタハタずしを作って食べさせる時間も設定しました。さらに子どものおばあさんから講師になってもらいました。

岩子小学校では、昭和62年に原野を切り開いた人々～大槻野開拓～をテーマにした授業でした。そこは台地で、水を得ることは困難であることを踏まえ、米作りに必要な水をどうやって取水したか予想させました。子どもたちはよく現地を見ていてたくさんある沼に着目していました。その後、聞き取り調査結果などを基に検証しました。

#### ○子どもたちへの思い

八峰町の子どもたちは活発で、地域に根差した面白いところがあれば食らいつく力があると思います。平成7年に能代山本の児童生徒を対象に「あなたはこの地域が好きか」という調査をしました。小学生だと8割くらいが好きだと答えたんですが、中学校になるとだんだん現実味を帯びて少なくなっていくんです。でも、八峰町の子どもたちには、好きという気持ちを大事にしてほしいですね。

ジオパークが、そのお手伝いの一つになればと思います。秋田県全体でも、ジオパークを活用した教育実践が広がればいいですね。その動きは、ここからも発信して広がっていければいいですね。そんな夢ばかり見てます。



今年度の八森小学校のジオ学習の様子